

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025 年 12月 12日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 国際高等教育院

職 名・学 年 教授

氏 名 舟橋 春彦

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	全米科学教育協会ミネアポリス大会2025 2025 National Conference on Science Education in Minneapolis		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☒ 口 頭 ・ ☒ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	Everyday Science Adventures: Exploring Motion with Straws and Swabs (Nov.13) Using Molecular Models Can Be a Sparkling Experience, Opening the Door to Science II. (Nov. 14)		
開 催 場 所	米国・ミネソタ州・ミネアポリス・ミネアポリスコンベンションセンター		
渡 航 期 間	2025年 11月 10日 ～ 2025年 11月 16日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	230,830円
		宿泊費	135,000円
		滞在費	
		学会参加費	
		その他	
	以上に助成金を充当		
当財団の助成についで	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		
	有力な研究者や意欲的な現場教員と知り合うよい機会を得ることができました。どうもありがとうございました。 大規模な国際会議ではなく、有力な少数の海外の研究者・実践者を招いて研究協力の立ち上げ期の 小規模な研究会を組織できる機動的な助成があれば研究成果の展開が望めると存じます。		

成果の概要／舟橋春彦

研究集会名：2025 National Conference on Science Education in Minneapolis

発表題目：Everyday Science Adventures: Exploring Motion with Straws and Swabs

Using Molecular Models Can Be a Sparkling Experience, Opening the Door to Science II.

従来型の一斉授業への反省に立ち、種々の科学教育研究の取組みが各国でなされている。日本には仮説実験授業という独創的な授業科学の理論と実践がある。これを海外の科学教育研究関係者に発信・普及することを目指している。そのための発表2件を標記集会：全米科学教育協会 2025 ミネアポリス大会で行い、多くの参加者から好評を得る成果を上げることができた。

我が国の児童生徒学生の学習意欲の低迷が憂慮される中、科学の紆余曲折の歴史を教室に再現する仮説実験授業は、「新しい科学・文化を創り出して行くこと自体のたのしみ」を伝え「価値の定まらない新しいものを評価する力」を育てる実践的成果を挙げている。その核心は、問題→予想→議論→実験の過程を積み上げ、概念・法則を学んで行くと共に、考え方自体も身に付けて行く点にある。具体的に、《授業書》と呼ぶ教科書・ノート・読み物と教師用ガイドも含む統合的な教材を授業科学的に開発していることが決定的である。こうした事実を具体的な教材と授業記録に基づいて紹介した。仮説実験授業提唱の板倉聖宣原著論文英訳選集“Hypothesis-Experiment Class (Kasetsu)”を主催団体の出版物販売書架に展示してもらうことができ、深い関心を寄せてくれる層への興味に応えることもできた。

本大会の参加者数は主催者発表3300名であった。全米有数の一大科学教育イベントであり、大学や公的教育研究機関などの研究者に加え、初等中等教育の現場の教員や教員を目指す若者も集うことが特徴的である。「明日の授業」という実践的な問題意識の多くの参加者に対し、授業科学としての学術的な成果が教育実践の場に還元される。所期の目的に最適の研究集会である。本国際研究集会発表助成を頂き非常に有益な機会の得られたことを、公益財団法人・京都大学教育研究振興財団に深く感謝申し上げたい。



左側：ワークショップの様子。想定を上回る会場満員の熱心な参加者に集まって頂けた。上から順に；「問題→予想→議論→実験」の予想の集計中、実験中、講師の演示実験に全員注目、最後に盛大な拍手を頂戴した。右側上段：ワークショップ講演中の筆者。中段：演示教具の目玉「1億倍 空気儀」と主催団体代表者との記念撮影。下段：ポスターセッションの絶え間ない来訪者への応答。